

平成25年第2回小金井市教育委員会臨時会議事日程

平成25年5月7日（火）

午後1時15分開会

開催日時	平成25年5月7日	開会 午後1時15分 閉会 午後2時07分	
場 所	小金井市役所第二庁舎 801会議室		
出席委員	委員 長 伊藤 恒子 委員長職務 代理者 鮎川志津子 委 員 高木 裕	委 員 宮本 誠 教 育 長 津幡 道夫	
欠席委員			
説明のため出席した者の職氏名	学校教育部長 天野 建司 生涯学習部長 西田 剛 生涯学習課長 天野 文隆 庶務課長 関 次郎 学務課長 前島 賢 学務課長補佐 河田 京子 指導室長 河合 雅彦 指導室長補佐 神田 恭司	指導主事 平田 勇治 図書館長補佐 上石 弘美 公民館長 大関 勝広	
調 製	佐藤 菜穂子		
傍聴者人数	0名		

日程	議 題	
第 1		会議録署名委員の指名
第 2	協 議 第 3 号	学校給食の新しい経営方法について

伊藤委員長 ただいまから、平成25年第2回小金井市教育委員会臨時会を開会する。

伊藤委員長 それでは、日程第1「会議録署名委員の指名」
本日の会議録署名委員は、鮎川委員と宮本委員にお願いする。

(委員一同異義なく、上記2名が選出された)

次に、日程第2「協議第3号 学校給食の新しい経営方法について」を議題といたします。提案理由について説明願ひ申し上げます。

津幡教育長 提案理由について説明する。
平成25年9月から実施する5校委託4校直営による小学校給食調理業務の新しい経営方法について協議を求めるものである。
細部につきましては、担当から説明しますので、よろしくご審議の上、ご協議賜りますようお願い申し上げます。

前島学務課長 協議の前に、小学校給食調理業務5校委託4校直営につきまして簡単に経緯をお話させていただく。平成25年3月27日開催の教育委員会において、小学校給食調理業務見直しということで、職員団体と協議中であり、4月からの委託はしないということを報告した。平成22年8月から職員団体と協議を重ね、平成24年3月6日、及び14日職員団体に対し、教育委員会の考えを提案し、さらに協議を重ね、平成25年4月12日、及び4月30日、2つの職員団体と小学校給食調理業務について小学校9校のうち、5校民間委託、4校直営とすることについて合意した。
背景としては、平成22年5月作成された、第3次行財政改革大綱に基づき、委託を視野に入れた新しい経営方法の検討をおこなってきたところですが、厳しい財政運営が続く中、教育委員会といたしましても将来を担う子供達のための教育行政の維持向上が困難と考え、給食の改善だけではなく、教育行政の維持・向上を視野に入れ、行財政改革の一つの手段として効率的な学校給食の経営を検討してきた。また、学校給食調理現場に目を向けると、現在多摩26

市で技術労務職の給食調理員の採用が行われていない中、小金井市としても、非常勤嘱託職員の配置により、支章ないよう運営してまいった。直営を唯一の経営方法として考えた場合、小金井の給食水準を維持していくことが難しくなるだけでなく、給食の提供そのものへの影響がでることを懸念していた。

そこで今回の新しい経営方法としては、資料での説明とする。

4つの目的として、財政効果の側面として、「学校給食の改善」、「明日の小金井教育プランの推進」、次に、(2)として新しい経営方法による側面として、「小金井市給食の質の維持と向上」、「新たな展開」の4つの目的を示した。そして、そこには書いてないが、小金井市の新たに作った、「小金井市学校給食の指針」にもとづき、(2)イにあたると思うが、保護者や児童、生徒からの意見や意向を反映する機会を作り、給食に関して市民が意見を出せる仕組み作りを検討していきたいと考えている。まずこの目的を達成するために新しい経営方法として、「安全でおいしく温かい給食」ということで、民間のノウハウと1ページの新しい経営方法ということ、安全でおいしく温かい給食の提供するため、民間のノウハウと直営校の技術的知識と経験を融合させ、4つの区域を基本に小学校給食調理業務の5校委託と4校直営のかたちで、より効果的かつ効率的に事業を実施していくものである。のちに直営校、委託校に配置の考えに関わるが、市内を東西南北の4つの区域に分け、委託校、直営校をバランスよく配置し、1つの地域に小学校2～3校、中学校1～2校、小中あわせて3～4校にしまして、食育推進、地域への貢献、また新たな展開、給食の質の向上と中心的な役割をもたせたいと思っている。4つの目的の給食改善度としては、現在、第一小と本町小には強化磁器食器がまだ導入されてない。給食室が狭く必要な機材が設置できていない。こちらをぜひ、給食の改善の目的としていれたい。

また、明日の小金井教育プランの推進という意味では、特別支援員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーこういったものを、充実できればと思っている。給食の質に関しては、新しく作った小金井市学校給食の指針を活かしながら直営校により伝統の継承、直営校と委託校の交流をはかっていきたい。新たな展開として、食育の推進、従来からやっているが、調理員の参加が、各校欠員をかかえている状況で難しかった。今後委託によって各校欠員が無くなる予定。そういったところに力をいれていく。また地域

の貢献、例えば、給食展、食育推進計画に基づく計画にあるクッキング教室。また指針の最後に提案した保護者の参加による学校給食の仕組みづくりによる地域貢献を図ってまいる。そのあたらしい経営方法の理念としては、融合である。従来だとなかなか委託、直営を区別して考えるような傾向があったが教育委員会としては、今回あたらしい経営方法ということで、委託、直営に関わらず、学校教育の給食経営というところに主眼をおいて、官民間わず、一緒に安全でおいしく温かい給食を提供すべきという考えをもってつくった。さらに給食の調理体制が充足されることから従来できなかったこと、してこなかったことを再度検討させていただき、給食のさらなる発展をめざしていくという考えである。具体的な発展方法については、また現場の話、例えば保護者の意見というものが必要となっていくと思うので、今後具体的なことは検討させていただきたい。それにより新たな展開をして子供たちや保護者の満足度を向上させていきたい。

直営校、委託校の決めかたは、5をみてください。こちらに書いてある地域的なバランス、調理施設、設備機器こういったものを含めて、財政効果だけでなく、配置的にも、十分今後の給食に活用できるような配置となっている。これらのことを案としたところであり、このように決定していきたいと事務局は考えている。最後に今後のスケジュールであるが5月13日から小学校全校9校、8日間連続で、保護者説明会を行う予定である。非常にタイトなスケジュールであるが説明会の前に子供と保護者にアンケートをとるなど、時間的にはないなかでも、丁寧に進めている。すべきことはできていると考える。小金井の安全でおいしく温かい給食の水準を維持、継続して提供するだけでなく、向上も目指しつつ財源を生み出せるというふうに考えている。この新しい経営方法による5校委託、4校直営についてどうぞよろしくご協議いただきたくよろしくお願いする。

伊藤委員長 大変よくわかった。何か、質問、ご意見はあるか。

鮎川委員長 今ご説明よくわかった。いくつか質問あるが、まず1つは小学校
職務代理者 の中で5校委託4校直営ということで直営校の役割というのは、過

去の技術、伝統継承、小金井らしさを保つということで理解できたが、民間のノウハウのところについてどのような利点があるかも少し細かく説明をお願いします。

前島学務課長 市の調理といいますと、技術の伝承といわれているが、知識と経験に基づくものである。体系化した調理というかたちよりも知識、経験による調理技術と考える。一方、民間の調理というものは、チーフ、サブチーフ、パートと体系的に給食調理業務が管理されている。合理的、効率的に業務を実施しておる。また、委託業者のほうは学期ごとに3日以上研修や業務上の関連が深い法令など研修を行う。委託業者の調理上の情報交換、知識の交換することで直営の調理員も刺激を受け、また体系的なことを情報交換しているのではないかと期待しているところである

鮎川委員長
職務代理者 わかった。直営と民間とそれぞれよいところを補完しあう。

前島学務課長 その通りである。

宮本委員 学校給食であるので、小金井の全校が同じ給食の質を保ってもらいたい。今、民間のノウハウと直営の経験を融合させてというお話しだが、これ具体的には市として、教育委員会としてはそういう場を考えているか。

前島学務課長 実際にすでにみえないところで、給食調理員、委託の業者が意見を交換しているようなことを多少聞いている。これを実際に体系的にシステム化して、できればというふうに思う。

伊藤委員長 融合にそういったことがはいつている理解か。他にはあるか。

前島学務課長 その通りである。

鮎川委員長
職務代理者 今の融合は説明でよく理解できた。もうすこし文章で具体的に表現した方がよいのでは。わかりにくい気がする。

前島学務課長 おっしゃるとおりである。何をやるかわかりにくい部分もあるので具体的に検討したいと思う。

伊藤委員長 こんなことかなあんなことかなと範囲が広がり過ぎても困る。狭くても困る。わかるように。他にはあるか。

宮本委員 この中にあります財政効果の表について説明をお願いします。

前島学務課長 まず上段の12ヵ月ということろ4200万円書いてある。9校の小学校給食調理業務を直営で行った場合の人件費、正規職員、非常勤嘱託職員を含めて人件費合計から、5校委託、4校直営、正規職員 非常勤嘱託職員の人件費を引くと4200万円というのがこの表である。給食にかかる経費がこれだけ削減できるというかたちの表となっている。

宮本委員 そうしますと実質的には委託校が5校できたことによって4200万円削減できることになっていますよね。その中身、質に変化があるのではないかと考えたい。この差は何からできてるか。

前島学務課長 まず民間企業の場合おおむね夏休みを除いた金額8月を除いたものの委託料ですむ。そういう積算を見積もって出してくる企業が多い。1か月分まるまるないような状況で人件費や委託料を計算されていると分析。したがって、直営では12ヵ月分は職員は働いているが、委託の場合は、調理業務だけを委託しているので8月の給食のないときは、委託料から除かれる。金額が差がでるからということで、給食調理業務に影響がでるわけではなく、今後も調理業務については同様に思っている。中学校もすでに委託しているところもあるので、そちらの状況からしてもなんら変りなく給食は提供できると考えておる。

宮本委員 今ご説明理解できたが、さっき新しい食器が2校でまだ導入できてないなかなか難しいお話あり。食器は目に見えるものだからある意味はつきりする、出てきた食事は子供にとって一番大事、食事の内容はなかなかわからない、同じものでも産地とかいろんなものを気になさる保護者の方もいらっしゃると思うので、質が落ちな

いようをお願いしたいと思う。

前島学務課長 おっしゃるとおり。まず今回委託というのは、調理業務の部分だけで委託、いままでどおり栄養士はいますので、いままでどおりの食材購入のかたちになり、食材についての変更はなくは、いままでどおり、安全安心。そちらのほうは念頭において購入する。

宮本委員 今お聞きした、いわゆる食物アレルギー、この前健康診断したら意外とそういうものをもってる児童さんがいますが、今までは1校の給食では、除去食は2種類しかできななかったが、委託にすることによって数を増やすとか何かメリットあるか。

前島学務課長 今話があった除去食は、2種類でやっている、小金井市の基準として作成し、全校同じタイミングで実施している。今回委託によって代替食をつくりとかそういうところまでは考えは及ばない。ただご意見として貴重なご意見ですのでこれから考えたい。

鮎川委員長
職務代理者 質問がだぶるので、念のための確認だが、5校委託することによって財政効果がとてもあるのは、わかったが、一般的にはイメージ的には5校委託で、4校直営をのこすと、学校間で差があるようなイメージが見える。今の話をうかがって、栄養士さんが各校にいて、食材の購入もいままでどおり、給食の質にはまったくかわりなく、全校同じ質で、同じ小金井らしさを維持、全校差がないことでよいか。

前島学務課長 差はうまれない。ただ、委託業者なので、例えば、子供達と直接のふれあいということで、若干制約がありやりにくいところはあるのかと思うが、小金井の給食調理員がやってきたようにやってもらおう。たとえば、仕様にそこまでもりこむか、具体的なガイドラインをつくってこれは必ずやってもらおうか、中学校の時よりもふれあいがたぶん多くなると思うので必要かなど。最終的にはやっていただく。給食自体は何のかわりはない。

宮本委員 委託業者の選択はどういう方法か。契約は1年か数年か。

前島学務課長 プロポーザルの公募型というかたちになるので、業者を募集して、提案してなかで選ぶ。お金の面だけでなく、その業務の内容をよくみて決めていく。だた基本的には1年契約ですが中学校につきまして5年、万が一不都合があれば改善し、決定していく。

鮎川委員長
職務代理者 今のお話で5年という目安があるのかもしれないですが、委託の場合は民間業者さんを決めて1年でかわったり、いれかわりもあると思いますが、交流をしたり、直営校との交流で小金井らしさをお伝えしても契約が変わるごとにそれらが無になってしまうのでは、そのあたりはどのようなお考えか。

前島学務課長 委員の先生がおっしゃることもあるのかなと思います。小金井の給食をよくしていくための蓄積なのかなと思う。企業の方が給食業界から撤退しない限りは、小金井の給食は業者の方にも蓄積されるのかなと。他地区で広がって、また給食調理業務を請け負う会社の方のスタンダードになり、小金井にもどってくればいい。けして無駄にはならない。

伊藤委員長 配置案にお尋ねする。直営5校、委託4校に分けた効果、客観的な指標をもう少しこれにいたった経過を教えてください。

前島学務課長 まず調理員、栄養士、現場の職員に聞いている。例えば、調理員ですと、設備のととのったところで、給食を調理していいものを中心として発信していくということも意見としてあった。一方、なかなか設備的に慣れてないと難しいという意見もあり、なかなか古い施設が多い小金井の調理場ですので、整備されてないところは、直営の調理員がやった方がいいという意見も逆にあった。また、食育がしやすいという意味では、配食数の少ないところが直営にした方がいいという意見がある一方、大きな食数の多いところでそういう意見もある。さまざま意見が出された。最終的には、財政効果ということで、客観的なところでみれるということもあり、財政効果の高い順番でみてきたところ、バランスよく、一定のバランスをもって財政効果もうまれ、バランスよい学校があった。最終的には、そのようなかたちをとらせてもら

うところである。

伊藤委員長 中央線が高架化されて、南北のへだだりがなくなったのだが、中央によつてるように感じた。もっと離れたところではどうだったのか。他の小中学校への影響という意味では場所的にはどうかなどと思い、お尋ねした。

前島学務課長 さまざまなところで考えた。離れてもっと区域の真ん中もあり、さまざま考えていくとその区域のなかで地域的なバランスということでブロックごとに、まず考えたいなどそのブロックでどこにするかは逆にいうと、さほど影響はないかなという思いがある。最初は地理的に真ん中を選ぼうかと思ったが、最終的に小金井市はそんなに大きくない市ですので、学校単位で3校～4校をブロックで向上していけばなど。それと同時に財政効果がうまれるということもあり、最終的にこのような配置となった。

伊藤委員長 いろいろ考えられての配置ですね。たいへん細かいことだがさきほど宮本先生の質問があった夏休みの時に、職員を配置されないということで給食をはじめる時には、それなりの給食室等を準備等もいるわけだが、直営校の調理員等とか補ってくれると考えて良いか。夏休み等の給食室の管理キーマンと思う。

前島学務課長 夏休みはまったくないかというとはそうではなく、給食はじめるまえは一定準備期間として日数がとられている。その範囲で、業者の方は準備をする。問題ない。

伊藤委員長 わかった。他にはよいか。
さきほどアンケートということがあり、アンケートをふまえたどのように今後使っていくのか。説明下さい。

前島学務課長 まず、アンケートにつきましては、保護者と児童にとり、保護者向けのアンケートにつきましては、保護者説明会で、どのようなことが気になっているのかということころをいっせいに把握しておきたい、またどのような不安があるのかということ

ころもありまして、保護者説明会で集計したのち、保護者説明会に臨んで、その場で不安だったりすることを払拭できればなという思いでアンケート調査いたした。児童に対してのアンケートにつきましては、今現在直営で現在している。この時点で直営の給食の状況をどう考えているか子供達の意見を集めまして、また委託がはじまった後、一定期間をおいてから、子供たちの意見を聞いてどのように変わったかというのを知りたい。またその結果によっては改善だったり、今後給食の向上に役立てたいという思いもあり、保護者と子供達にアンケートをとったというかたちである。

伊藤委員長

保護者の集計については説明会の時に公表し、それについて疑問にこたえていくかたちで、役立てるということであるか。

さきほど、小学校には授業等に関わらず、学校で給食に必要な中学校とはちがうというお話をうかがった。中学校の給食調理業務委託と特にちがうところのお考えはあるか。

前島学務課長

調理業務であるので、中学校とかわりない。また余談だが、例えば家庭科の授業のとうもろこしの皮むき等をやっていると思う。どこの業者でもやっているのもそういったことの心配ない。

伊藤委員長

ソラマメの皮の研究。授業やそういうところに関わるということで委託をお願いするということであるか。

他にあるか。配置校等について意見あるか。さきほどはいろいろなことがあってこの5校直営、4校委託案としてきめられたが、とくにないか。

この4つの目的のなかの1番のアに掲げている第一小、本町小の磁器食器についての見込みはどうなっているのか具体的なことはどうか。これから先のことか。

前島学務課長

こちらについては、工事もからんで、大きなものになる。食器だけならば難しくないが、工事が入ってくるので、庶務課とよく調整しながら、少しでも早く導入したい。いつまでも一小

小学校と本町小学校の子供たちが磁器食器で食べられないのは、非常に残念なのでぜひ早くしたいと思っている。

伊藤委員長 給食調理室をひろげるところからはじめないといけないか。狭いということか。

関庶務課長 委員長が言われるとおりで。広げるということになると相当な議論となる。そこは今後調整して学務課とできるところからやっていきたいと思う。

伊藤委員長 個人的には、小金井らしさの1つであると思う。できるならば、磁器食器で食べれたら良いと思う。

鮎川委員長
職務代理者 漠然とした質問であるが、アンケートをとって、これから集計作業にははいると思うが、学校のほうの先生方や栄養士さんからの直営校の調理員さん達の反応はいかが。

前島学務課長 それぞれ学校での校長会や調理員とも話しているところである。学校のほうからは「差がないようにしてほしい」という意見があり、さきほどお答えしましたがそちらのほうについては心配ないとしていくと。直営とに委託で調理、給食に差があったり、対応に差があったり、子供たちとふれあい部分に差があると、質がおちる。そのようなことがないようにしたいと思う。調理員、栄養士についてはさきほど言っていた委託によって今後充実していくところがあるのではないかと期待してもらっている。今後継続して運営にあたって話を聞きながら進めたい。

伊藤委員長 もう1つよろしいでしょうか？学校給食というものは、市の責任で影響していくものだとおもっているが、ここにある保護者等の参加にある学校給食があるが、具体的にはどういったことを念頭におくか。

前島学務課長 現在でも学校給食委託校には、学校給食運営協議会を設置し、学校、保護者、委託業者、教育委員会が集まって、学校の給食

の運営状況を給食を食べながら、確認していく。ただ保護者の方は、PTA代表2名程度である。保護者の方は各学校試食会を行っている。そこでは全員対象にアンケートをおこなっているわけではない。そういった中で、保護者の中では、ぜひ参加したいと思っている人がいるのではと思う。保護者が参加しながら、今後安心した給食をよくみてもらうと言いが正しい、よくみえる給食をだしていきたいと思う。組織は検討していただきたい。

伊藤委員長 保護者の参加によるとどうということかなと思ったが、学校給食をよくわかってもらうという理解でよいか。

ほかにあるか。

宮本委員 今回の提案には加わっていないが、正規職員、臨時職員の雇用の関係について若干説明してください。

関庶務課長 人員体制、まず正規職員今26名いるが任用替えを考えている。今考え方としては、9校のうち、8校が欠員状態であるが、欠員を全部補充しつつも、過員が生じるので、それについては8月、9月以降の任用替を予定している。非常勤嘱託職員は、今現在全学校について7月31日までで雇用が終了する。それ以降については未定であるが、直営は、8月以降は必要人数分非常勤職員についてはまた新たな雇用になる予定である。以上である。

伊藤委員長 以上で質疑を終了する。

それでは、お諮りする。「協議第3号 学校給食の新しい経営方法について」は、ただいまの協議結果を踏まえ、承認することにご異議はないか。

(委員一同異議なしの声)

ご異議なしと認めます。本件については、原案のとおり承認することと決定した。

本日の日程はすべて終了する。

これをもちまして、平成25年第2回教育委員会臨時会を閉会
する。

閉会 午後2時07分